

科目区分	基礎分野	講師名	院外講師	学年	1学年	履修期	2学期		
授業科目	情報科学・演習								
単位・時間数	2単位・30時間	実務経験の有無	無						
授業方法	講義・演習								
科目目標	1. 報告書の作成や数値データの処理ができるようになるための基本技能を習得する。 2. 現在広く用いられている Windowsと代表的アプリケーションソフトおよびインターネット上の機能と操作方法について習得する。								
授業計画	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%; vertical-align:top;"> 第1回(講義)  パーソナルコンピュータの基礎  基本操作、タッチタイピング、USB メモリ  第2回(講義)  インターネットの基礎(1)  インターネットのしくみ、ブラウザ、メール  第3回(講義)  インターネットの基礎(2)  情報セキュリティ、モラルについて  第4回(講義・演習)  Microsoft Word(1)  基本操作、文字入力、辞書ツール  第5回(講義・演習)  Microsoft Word(2)  書式設定の基礎  第6回(講義・演習)  Microsoft Word(3)  表・図の作成  第7回(講義・演習)  Microsoft Excel(1)  基本操作、数式入力 </td> <td style="width:50%; vertical-align:top;"> 第8回(講義・演習)  Microsoft Excel(2)  基本的な関数、書式設定  第9回(講義・演習)  Microsoft Excel(3)  少し高度な関数(IF、AND、OR 等)  第10回(講義・演習)  Microsoft Excel(4)  グラフの利用  第11回(講義・演習)  Microsoft Excel(5)  データベース、ピポットテーブル  第12回(講義・演習)  Microsoft PowerPoint(1)  基本操作  第13回(講義・演習)  Microsoft PowerPoint(2)  スライドの作成方法  第14回(講義・演習)  Microsoft PowerPoint(3)  スライドのデザインと仕上げ  第15回  科目終了試験 </td> </tr> </table>							第1回(講義) パーソナルコンピュータの基礎 基本操作、タッチタイピング、USB メモリ 第2回(講義) インターネットの基礎(1) インターネットのしくみ、ブラウザ、メール 第3回(講義) インターネットの基礎(2) 情報セキュリティ、モラルについて 第4回(講義・演習) Microsoft Word(1) 基本操作、文字入力、辞書ツール 第5回(講義・演習) Microsoft Word(2) 書式設定の基礎 第6回(講義・演習) Microsoft Word(3) 表・図の作成 第7回(講義・演習) Microsoft Excel(1) 基本操作、数式入力	第8回(講義・演習) Microsoft Excel(2) 基本的な関数、書式設定 第9回(講義・演習) Microsoft Excel(3) 少し高度な関数(IF、AND、OR 等) 第10回(講義・演習) Microsoft Excel(4) グラフの利用 第11回(講義・演習) Microsoft Excel(5) データベース、ピポットテーブル 第12回(講義・演習) Microsoft PowerPoint(1) 基本操作 第13回(講義・演習) Microsoft PowerPoint(2) スライドの作成方法 第14回(講義・演習) Microsoft PowerPoint(3) スライドのデザインと仕上げ 第15回 科目終了試験
第1回(講義) パーソナルコンピュータの基礎 基本操作、タッチタイピング、USB メモリ 第2回(講義) インターネットの基礎(1) インターネットのしくみ、ブラウザ、メール 第3回(講義) インターネットの基礎(2) 情報セキュリティ、モラルについて 第4回(講義・演習) Microsoft Word(1) 基本操作、文字入力、辞書ツール 第5回(講義・演習) Microsoft Word(2) 書式設定の基礎 第6回(講義・演習) Microsoft Word(3) 表・図の作成 第7回(講義・演習) Microsoft Excel(1) 基本操作、数式入力	第8回(講義・演習) Microsoft Excel(2) 基本的な関数、書式設定 第9回(講義・演習) Microsoft Excel(3) 少し高度な関数(IF、AND、OR 等) 第10回(講義・演習) Microsoft Excel(4) グラフの利用 第11回(講義・演習) Microsoft Excel(5) データベース、ピポットテーブル 第12回(講義・演習) Microsoft PowerPoint(1) 基本操作 第13回(講義・演習) Microsoft PowerPoint(2) スライドの作成方法 第14回(講義・演習) Microsoft PowerPoint(3) スライドのデザインと仕上げ 第15回 科目終了試験								
評価方法	実技試験(100点) (検索エンジン、メールのマナー、情報セキュリティー、ワード、エクセル、パワーポイント)								
テキスト	1. 情報リテラシー教科書 Windows10/Office2019 対応版(Ohmsha)								
参考書	授業で紹介								
備考 (メッセージ)	いうまでもなく、パソコンは精密機械です。長く快適に使い続けるには、無理な操作をできるだけ避けることが大事です。自分が今どの操作をしているのか把握できるようになるまでは、階段を追って確実な操作をするように心がけてください。作成したファイルを保存する USB メモリを持参してください。								

科目区分	基礎分野	講師名	院外講師	学年	1学年	履修期	1学期		
授業科目	化学	実務経験の有無	無						
単位・時間数	1単位・15時間								
授業方法	講義								
科目目標	1. 世の中の「物質」を化学的に理解し、その性質を予想することができる。 2. 濃度、エネルギーなどの化学的な計算をできる。								
授業計画	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%; vertical-align:top;"> <p>第1回 物質の構成・物質量 (原子の構造, 元素周期表の読み方を理解する。物質量の計算ができる。)</p> <p>第2回 化学結合・アンモニア合成 (原子のイオン化と酸種類の結合について理解する。アンモニア合成の歴史を知る)</p> <p>第3回 物質の三態・プラスチック (液体, 固体, 気体の特性を理解する。物質量を理解し, 標準状態の気体の体積, 溶液の濃度を計算できる。プラスチックの合成方法について知る。)</p> <p>第4回 物質とエネルギー・エンタルピーとエントロピー (ヘスの法則を理解し, 熱化学方程式を書くことができる。エンタルピー・エントロピーについて知る。)</p> </td> <td style="width:50%; vertical-align:top;"> <p>第5回 化学反応の速さ・化学平衡・触媒 (活性化エネルギー, ル・シャトリエの原理を理解する。反応の速度と選択性に対する触媒の働きについて理解する。)</p> <p>第6回 酸と塩基・石油化学工業 (酸と塩基の定義を説明できる。pHを理解する。石油化学工業で何が作られているかを知る。)</p> <p>第7回 酸化還元反応・光触媒 (酸化数を理解し, 酸化還元反応式を立てることができる。光触媒について知る。)</p> <p>( ) の中は到達目標</p> <p>第8回 科目終了試験</p> </td> </tr> </table>							<p>第1回 物質の構成・物質量 (原子の構造, 元素周期表の読み方を理解する。物質量の計算ができる。)</p> <p>第2回 化学結合・アンモニア合成 (原子のイオン化と酸種類の結合について理解する。アンモニア合成の歴史を知る)</p> <p>第3回 物質の三態・プラスチック (液体, 固体, 気体の特性を理解する。物質量を理解し, 標準状態の気体の体積, 溶液の濃度を計算できる。プラスチックの合成方法について知る。)</p> <p>第4回 物質とエネルギー・エンタルピーとエントロピー (ヘスの法則を理解し, 熱化学方程式を書くことができる。エンタルピー・エントロピーについて知る。)</p>	<p>第5回 化学反応の速さ・化学平衡・触媒 (活性化エネルギー, ル・シャトリエの原理を理解する。反応の速度と選択性に対する触媒の働きについて理解する。)</p> <p>第6回 酸と塩基・石油化学工業 (酸と塩基の定義を説明できる。pHを理解する。石油化学工業で何が作られているかを知る。)</p> <p>第7回 酸化還元反応・光触媒 (酸化数を理解し, 酸化還元反応式を立てることができる。光触媒について知る。)</p> <p>( ) の中は到達目標</p> <p>第8回 科目終了試験</p>
<p>第1回 物質の構成・物質量 (原子の構造, 元素周期表の読み方を理解する。物質量の計算ができる。)</p> <p>第2回 化学結合・アンモニア合成 (原子のイオン化と酸種類の結合について理解する。アンモニア合成の歴史を知る)</p> <p>第3回 物質の三態・プラスチック (液体, 固体, 気体の特性を理解する。物質量を理解し, 標準状態の気体の体積, 溶液の濃度を計算できる。プラスチックの合成方法について知る。)</p> <p>第4回 物質とエネルギー・エンタルピーとエントロピー (ヘスの法則を理解し, 熱化学方程式を書くことができる。エンタルピー・エントロピーについて知る。)</p>	<p>第5回 化学反応の速さ・化学平衡・触媒 (活性化エネルギー, ル・シャトリエの原理を理解する。反応の速度と選択性に対する触媒の働きについて理解する。)</p> <p>第6回 酸と塩基・石油化学工業 (酸と塩基の定義を説明できる。pHを理解する。石油化学工業で何が作られているかを知る。)</p> <p>第7回 酸化還元反応・光触媒 (酸化数を理解し, 酸化還元反応式を立てることができる。光触媒について知る。)</p> <p>( ) の中は到達目標</p> <p>第8回 科目終了試験</p>								
評価方法	課題 (50点), 筆記試験 (50点)								
テキスト	化学基礎 (実教出版) ( <a href="https://www.jikkyo.co.jp/book/detail/17000019">https://www.jikkyo.co.jp/book/detail/17000019</a> )								
参考書	なし								
備考 (メッセージ)	高校化学の「理論化学」の範囲です。難しいです。 1. わからないことがあればその場で質問してください。わからないままでは、ただ授業が終わるのを待つことになります。そんなもったいない過ごし方をしてはいけません。その場で調べても構いません。 2. 数学が苦手という自覚があるなら、中学までは復習しておいてください。難しいです。 3. 教養科目としての側面があります。質問があったものをテーマとして授業を組むことがあります。								

科目区分	基礎分野	講師名	専任教員	学年	1 学年	履修期	1 学期
授業科目	リフレクション						
単位・時間数	1 単位・15 時間	実務経験の有無	有				
授業方法	講義・演習						
科目目標	1. リフレクションスキルを理解し、看護専門職として考え行動する思考サイクルを習得できる。						
授業計画	<p>第1回〔講義・GW〕</p> <p>1. どのように看護を学んでいくのか</p> <p>1) 看護におけるリフレクションとは</p> <p>2) リフレクション学習の基礎知識</p> <p>3) 成人学習者としての在り方</p> <p>4) 看護学生としての責任</p> <p>第2回〔講義・演習〕</p> <p>2. リフレクションとは</p> <p>1) リフレクションの学習サイクル</p> <p>2) リフレクション学習の基本ステップ</p> <p>3) コーチングスキル</p>		<p>第3～6回〔講義・GW〕</p> <p>3. リフレクションをするために欠かせないスキル</p> <p>1) リフレクション学習を始めるための準備</p> <p>2) 基本となるスキルとそのトレーニング</p> <p>(1) 自己への気づきを促す</p> <p>(2) 状況・場面を描写する</p> <p>課題レポート → GW</p> <p>「他者の文章表現を検討する」</p> <p>「うまくいかなかった出来事」</p> <p>(3) 批判的に分析する</p> <p>課題レポート → GW</p> <p>「校内実習で私が気になったこと」</p> <p>(4) 統合する</p> <p>(5) 評価する</p> <p>第7回〔GW〕</p> <p>4. 看護師としての思考、行動とは</p> <p>第8回</p> <p>最終課題レポート</p>				
評価方法	課題レポート(100 点)						
テキスト	なし						
参考書	1. 看護のためのリフレクションスキルトレーニング (看護の科学社)						
備考 (メッセージ)	自分自身で看護を考え実施し、より良い看護を探究していく過程においてリフレクションは重要です。そのため現象を正確に捉え、既存の知識を確認し、その状況に対する自らの行動の影響を考えると、物事を探求する姿勢を身につけて欲しいと思います。また、自分のものの見方や考え方を明らかにし、新たな問いを発しながら思考を深める力を身に付け、今後の看護学実習につなげて欲しいと思います。						

科目区分	基礎分野	講師名	院外講師	学年	1学年	履修期	1学期
授業科目	生物学						
単位・時間数	1単位・30時間	実務経験の有無	無				
授業方法	講義						
科目目標	看護学や医学を含む生命科学の基礎領域である、生物学の考え方を理解し身につけることで、人体で起こる現象やその仕組みを科学的に説明できるようになる。ヒトを含む生命の進化の過程と、進化学の考え方の概要を理解するとともに、生命とそれを取り巻く環境の関係について学び、持続可能な社会の実現に向け、自身の意見をもてるようになる。						
授業計画	第1回 (テキスト 第1章) 生命体のつくりとはたらき 細胞とその構造、細胞の化学成分		第8回 (テキスト 第6章) 個体の調節 器官系のはたらき、ホメオスタシス				
	第2回 (テキスト 第1章と8章の一部) 原核生物と真核生物 生物の分類と系統		第9回 (テキスト 第7章) 刺激の受容 神経系、受容器、運動				
	第3回 (テキスト 第2章) 生体維持のエネルギー ATPのはたらき、光合成と細胞呼吸		第10回 (テキスト 第7章) 動物の行動 動物行動の多様性、行動生態学				
	第4回 (テキスト 第3章) 細胞の増殖とからだのなりたち 体細胞分裂と減数分裂		第11回 (テキスト 第8章) 進化と種分化 進化のしくみ、生物の多様性				
	第5回 (テキスト 第4章) 遺伝情報の発現 DNAとRNAとタンパク質		第12回 (テキスト 第8章) ヒトの起源と進化 脊椎動物の進化、ヒトの進化				
	第6回 (テキスト 第4章) 遺伝の法則と染色体 メンデルの法則、ネコの遺伝、ヒトの遺伝		第13回 (テキスト 第9章) 生物と環境のかかわり 個体群と種間関係、群集と生態系				
	第7回 (テキスト 第5章) 生殖と発生 様々な生殖様式と初期発生		第14回 (テキスト 第10章) 地球環境とヒトとの共存 環境問題、生物多様性の保全				
			第15回 科目終了試験 科目の振り返り				
評価方法	筆記試験(100点)						
テキスト	1. 系統看護学講座 基礎分野 生物学 (医学書院)						
参考書	なし						
備考 (メッセージ)	花も木も、プランクトンもサンゴも、ヒトもネコもアメーバも、みんな生物です。この授業では、生物の多様性を学ぶとともに、共通するからだのつくりや生き方の仕組みを学びます。授業は講義形式で行います。授業では教科書を使用するほか、授業内容に沿って資料を配布します。						

科目区分	基礎分野	講師名	院外講師	学年	1学年	履修期	1学期		
授業科目	哲学								
単位・時間数	1単位・30時間	実務経験の有無	無						
授業方法	講義								
科目目標	人間の存在や価値について理解し、自己や他者について洞察し、それを自己表現する力を養う。								
授業計画	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 第1回 ガイダンス   第2回 ストレスについて   第3回～4回 緊張について   第5回 未来という名のプレッシャーについて   第6回 リラクゼーションについて   第7回～8回   攪乱する刺激について </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 第9回 人間というパラドクスについて   第10～11回 ダイエットについて   第12回 緊張のスパイラルについて   第13回～14回 感じることの深さについて   第15回 科目終了試験 科目の振り返り </td> </tr> </table>							第1回 ガイダンス  第2回 ストレスについて  第3回～4回 緊張について  第5回 未来という名のプレッシャーについて  第6回 リラクゼーションについて  第7回～8回  攪乱する刺激について	第9回 人間というパラドクスについて  第10～11回 ダイエットについて  第12回 緊張のスパイラルについて  第13回～14回 感じることの深さについて  第15回 科目終了試験 科目の振り返り
第1回 ガイダンス  第2回 ストレスについて  第3回～4回 緊張について  第5回 未来という名のプレッシャーについて  第6回 リラクゼーションについて  第7回～8回  攪乱する刺激について	第9回 人間というパラドクスについて  第10～11回 ダイエットについて  第12回 緊張のスパイラルについて  第13回～14回 感じることの深さについて  第15回 科目終了試験 科目の振り返り								
評価方法	毎回の授業終了後のミニレポート 筆記試験								
テキスト	授業ごとに資料、プリントを配布								
参考書	講義中に紹介								
備考 (メッセージ)	哲学の基本は、考えこむことと対話することです。考えこみながら対話し、対話しながら考えこむことです。考えこむことのたのしさ、対話することのたのしさが、哲学のたのしさです。私もこの授業で、皆さんと対話しながら考えこみ、考えこみながら対話したいと思います。								

科目区分	基礎分野	講師名	院外講師	学年	1学年	履修期	1学期
授業科目	心理学						
単位・時間数	1単位・30時間	実務経験の有無	有				
授業方法	講義						
科目目標	人間理解の基礎科目としての心理学概論を学習する。心理学の理論が看護における人間理解と対人関係においてどのように役立つのかを学ぶ。						
授業計画	<p>第1回 1. 心理学とは 1) なぜ心理学を学ぶのか</p> <p>第2回 1. 看護における人間理解 1) 人間理解と心理学 2) 心理学の歴史</p> <p>第3回 1. 心理学における人間理解のモデル 1) 精神力動的モデル 2) 行動論的モデル 3) 現象学的モデル</p> <p>第4回 1. 認知からの人間理解 1) 感覚の理解 2) 知覚の理解</p> <p>第5回 1. 記憶と想起 1) 記憶の働き 2) 知識としての記憶 3) 思い出すこと、忘れること</p> <p>第6回 1. 言語とコミュニケーション 1) ことばによるコミュニケーション 2) ことばの獲得</p> <p>第7回 1. 行動からの人間理解(1) 1) 欲求と動機づけ マズローの欲求階層説 2) 葛藤(コンフリクト)とフラストレーション</p> <p>第8回 1. 行動からの人間理解(2) 1) 学習と行動 古典的条件づけ オペラント条件づけ 行動療法</p> <p>第9回 1. 発達からの人間理解 1) 発達段階と発達課題 エリクソンの心理社会的発達理論 2) 乳幼児期から青年期へ アタッチメント(愛着)の形成と発達 3) 成人期から老年期へ</p> <p>第10回 1. パーソナリティからの人間理解(1) 1) パーソナリティとは パーソナリティの定義と概念</p> <p>第11回 1. パーソナリティからの人間理解(2) 1) 知能の理解 知能の定義 IQ と知能検査 2) 性格の理解 性格の類型論と特性論 フロイトの性格理論 3) 自己と自己意識 コフートの自己心理学 ロジャーズの自己理論 4) パーソナリティの理解</p> <p>第12回 1. 人間関係からの人間理解 1) 対人認知と対人関係 2) 集団と組織</p> <p>第13回 1. 心理臨床からの人間関係 1) ストレスとコーピング 2) 適応のメカニズム フロイトによる心の構造 防衛機制 3) カウンセリングと心理療法</p> <p>第14回 1. 看護に活かす心理学 1) 病者、患者の心理の理解 2) 看護師自身の心理の理解 3) 患者と看護師との関係 4) 看護師と医療スタッフとの連携</p> <p>第15回 科目終了試験 科目の振り返り</p>						
評価方法	筆記試験(100点)						
テキスト	1. 新体系 看護学全書 基礎科目 心理学(メヂカルフレンド社)						
参考書	1. 児童の心理臨床(ドメス出版)						
備考 (メッセージ)	学生が、自ら所属する社会に目を向け、そこに存在する問題を発見し、自分自身の問題として自覚できるようになって欲しい。						

科目区分	基礎分野	講師名	院外講師	学年	1学年	履修期	1学期		
授業科目	社会学・演習								
単位・時間数	2単位・30時間	実務経験の有無	無						
授業方法	講義・演習								
科目目標	<p>1. 現代社会の諸問題の理解に必要な「社会学的なものの見方」について理解する。</p> <p>1) 家族とは何か理解する</p> <p>2) 地域とは何か理解する。</p> <p>3) 高知県の抱える地域課題について理解する。</p> <p>4) 地域課題に対する解決法について理解する。</p>								
授業計画	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>第1回(講義) オリエンテーション／社会科と社会学の違い</p> <p>第2回(講義) 社会学とは何か</p> <p>第3回(講義) 社会学小史</p> <p>第4回(講義) 社会調査の方法</p> <p>第5回(講義) 家族とは何か</p> <p>第6回(講義・演習) 現代家族がかかえる問題</p> <p>第7回 家族問題の解決に向けて</p> <p>第8回 地域とは何か</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>第9回(講義) 伝統的な地域社会－イエとムラー</p> <p>第10回(講義) 伝統的な地域社会－相互扶助－</p> <p>第11回(講義) 地域の高齢化と過疎化</p> <p>第12回(講義・演習) 高知県の地域特性</p> <p>第13回(講義・演習) 高知県の地域課題と解決策</p> <p>第14回(講義) これからの家族と地域</p> <p>第15回 科目終了試験 科目の振り返り</p> </td> </tr> </table>							<p>第1回(講義) オリエンテーション／社会科と社会学の違い</p> <p>第2回(講義) 社会学とは何か</p> <p>第3回(講義) 社会学小史</p> <p>第4回(講義) 社会調査の方法</p> <p>第5回(講義) 家族とは何か</p> <p>第6回(講義・演習) 現代家族がかかえる問題</p> <p>第7回 家族問題の解決に向けて</p> <p>第8回 地域とは何か</p>	<p>第9回(講義) 伝統的な地域社会－イエとムラー</p> <p>第10回(講義) 伝統的な地域社会－相互扶助－</p> <p>第11回(講義) 地域の高齢化と過疎化</p> <p>第12回(講義・演習) 高知県の地域特性</p> <p>第13回(講義・演習) 高知県の地域課題と解決策</p> <p>第14回(講義) これからの家族と地域</p> <p>第15回 科目終了試験 科目の振り返り</p>
<p>第1回(講義) オリエンテーション／社会科と社会学の違い</p> <p>第2回(講義) 社会学とは何か</p> <p>第3回(講義) 社会学小史</p> <p>第4回(講義) 社会調査の方法</p> <p>第5回(講義) 家族とは何か</p> <p>第6回(講義・演習) 現代家族がかかえる問題</p> <p>第7回 家族問題の解決に向けて</p> <p>第8回 地域とは何か</p>	<p>第9回(講義) 伝統的な地域社会－イエとムラー</p> <p>第10回(講義) 伝統的な地域社会－相互扶助－</p> <p>第11回(講義) 地域の高齢化と過疎化</p> <p>第12回(講義・演習) 高知県の地域特性</p> <p>第13回(講義・演習) 高知県の地域課題と解決策</p> <p>第14回(講義) これからの家族と地域</p> <p>第15回 科目終了試験 科目の振り返り</p>								
評価方法	ワークショップへの参加・発言・基本的姿勢(50点) 筆記試験(50点)								
テキスト	1. 社会学と社会システム(学文社)								
参考書	授業中に紹介します								
備考 (メッセージ)	ワークショップを行います。								

科目区分	基礎分野	講師名	院外講師	学年	1 学年	履修期	1 学期
授業科目	英語 I (基礎英語)						
単位・時間数	1 単位・30 時間	実務経験の有無	無				
授業方法	講義						
科目目標	「外国人の患者さんの戸惑いを理解し、いかに対応していくか」をテーマに掲げたテキストを用い、基礎的な文法の知識を再確認するとともに、医療現場で使えるフレーズを習得する。						
授業計画	<p>第1回～14回            毎回テキストに沿って、様々なシチュエーションでの事例を通して、高校までに修得した英文法の知識の定着をはかるとともに、医療現場で使えるフレーズの習得</p> <p>第15回            科目終了試験</p>						
評価方法	筆記試験(100点)						
テキスト	1.「看護英会話入門」医学書院						
参考書	授業で紹介						
備考 (メッセージ)	履修にあたっては、テキストの該当部分について、十分に予習しましょう。分からないところは自分なりに調べ、問題の所在をはっきりさせた上で、授業に臨みましょう。授業後十分に復習し、学習した内容を確実に身につけていきましょう。日頃からテキストを繰り返し音読することが望ましいです。						



科目区分	基礎分野	講師名	院外講師	学年	1学年	履修期	1学期
授業科目	保健体育						
単位・時間数	1単位・30時間	実務経験の有無	有				
授業方法	講義・実技						
科目目標	<p>1. 様々なスポーツを行い、楽しみや生きがい、健康やコミュニケーションに影響を与えるスポーツの意義について考える。</p> <p>2. 主体的に行動、実践できる知識と技能、態度を習得する。</p>						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション ストレッチとからだづくり運動</p> <p>第2回～14回(講義・実技) スポーツと健康 からだを動かそう からだを動かすことと健康 健康の維持・向上 カロリーの計算方法 ルールを決めてのスポーツ</p> <p>第15回 科目終了試験(課題レポート)</p>						
評価方法	実技と課題レポートを総合的に評価する						
テキスト	なし						
参考書	なし						
備考 (メッセージ)	履修にあたっては、実技にふさわしい服装(ウェア・シューズ)を準備してください。 からだを動かすことで健康へのつながりを考えられるようにしていきます。						